

○提案内容

(1)実現したい都市のビジョン

### 交流

「人と人との交流、人と自然とのふれあい」

- 県北地域の発展を主導する交流拠点都市としての対応
- 新たな交流の促進
- 市全体における一体感あるまちづくりの推進
- 市街地のあり方の検討
- 歴史資源や自然環境の保全・活用

### 快適

「住みやすい玉名・住み続けたい玉名」

- 定住人口の増加
- 無秩序な市街地拡大の抑制と効率的で効果的な市街地の更新
- 中心市街地の再生・活性化
- 人にやさしいまちづくりの推進
- 市民サービスの維持・強化
- 環境負荷の少ないまちづくりの推進
- 景観まちづくりの推進

### 安全

「安全で安心できる暮らしの実現」

- 防災を柱としたまちづくりの推進
- 災害に強い都市の形成
- 安全・安心まちづくりの推進
- 地域ぐるみの安全・安心の確保

### 自立

「市民のまちづくりへの積極的参加」

- 協働のまちづくりの推進
- 運常感や郷土愛に支えられた元気な地域コミュニティの維持

人と自然がひびきあう 県北の都 玉名

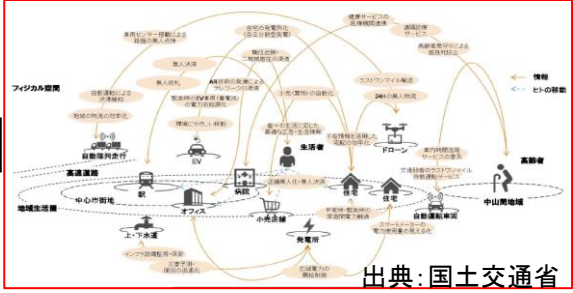
玉名市都市マスタープラン 将来像

SDGsを原動力とした地方創生

まちづくり分野において活用される新技術



出典：国土交通省



(2)新技術の導入により解決したい都市の課題

※課題については、別紙の(ア)～(シ)の課題分野への対応を記載ください(複数ある場合は、課題ごとに対応を記載ください)

解決する課題のイメージ	課題の分類
<p>(課題1) 避難所・避難経路整備や防災情報の周知による迅速に避難できる環境整備が必要である。</p> <p>(課題1 イメージ) 多様な災害に対応した緊急時の避難場所・経路の周知、円滑な避難誘導等が困難</p> <p>(課題2) 公共交通サービスの低下、将来的に高齢化率の増加が懸念され、同時に自動車の運転ができなくなる人の増加も予想されることから、買い物・通院等の日常生活に必要な不可欠な移動が困難になる「移動難民」が発生する。</p> <p>(課題2 イメージ) デマンド交通等は、住民の生活行動・利用ニーズと合わず、また、職員による経路作成となっており、利便性の欠如及び職員への負荷が生じ、利用者が少なく、業務としても非効率となり、財政圧迫、維持が困難と悪循環に陥っている。</p> <p>(課題3) 政府が掲げる「2050年までに温室効果ガスの排出量を実質ゼロ(ネット・ゼロ)とする」目標の下、本市もスマートシティの取り組みにより地域のネット・ゼロの実現を加速させたいが、市全体での目標がない。</p> <p>(課題3 イメージ) 地球温暖化対策実行計画(事務事業編)を策定し、公共施設での取り組みを推進して、政府が目標とする2030年までに2013年比で46%の温室効果ガス削減を達成しつつあるが、市全体での取り組みがない。</p> <p>(課題4) インフラの老朽化に伴い、メンテナンスサイクルを実施しなければならないが、予算がない、人手不足等により、効果的効率的な維持管理ができていない。</p> <p>(課題4 イメージ) 予算がない状況で、選択と集中が求められる中、優先順位をつけて、メンテナンスサイクルを回すための仕組みがないため職員への負荷が生じ、利用者が少なく、業務としても非効率となり、財政圧迫、維持が困難と悪循環に陥っている。</p>	<p>課題1_(ウ) 課題2_(ア) 課題3_(イ) 課題4_(エ)</p>

**(3) 具体的に導入したい技術(既に想定しているものがある場合)**

(課題1\_具体的に導入したい技術)

データの活用(可視化技術等)において、3Dモデルを構築し、多様な災害に対応した避難場所・経路の周知、円滑な避難誘導へ繋げる。

(課題2\_具体的に導入したい技術)

分析・予測技術において、AIを活用した都市活動の解析・予測等を実施し、AI技術を活用した最適なルート提案、また、モード間のシームレスな移動を可能とするスキームの構築(地方版MaaS)

(課題3\_具体的に導入したい技術)

分析・予測技術において、3D都市モデルを利用し、太陽光ポテンシャル推計シミュレーション

(課題4\_具体的に導入したい技術)

分析・予測技術において、3DのVRシミュレーションを利用し、センシングとデータ統合によるインフラのマネジメント

**(4) 解決の方向性(イメージでも可)**

(課題1\_解決の方向性)

資源の最適配分、施設間の融通により、災害時における被災者の安心感を高めるとともに被害の最小化を図る。

(課題2\_解決の方向性)

住民の生活行動から利用ニーズを把握し、それに応じた効率的かつ柔軟なサービスを提供するとともに、移動サービスのみにとどまらず、複数のサービスを併せて実施することで、財政制約の厳しい本市における効率的な行政サービス提供等を同時に実現する。

(課題3\_解決の方向性)

スマートシティの取り組みにより、市全体でネット・ゼロを実現するため、検討すべきことを整理する必要がある。そのためには、まず、正確に現状把握をする必要があるため、3D都市モデルを利用し、太陽光ポテンシャル推計シミュレーションを行い、ネット・ゼロ基本構想計画を検討する。

(課題4\_解決の方向性)

ICTによる日常維持管理の情報収集と集約を行い、維持管理の高度化を図る。具体的には、センシングとデータ統合によるインフラのマネジメント、公共空間の利用状況や管理に必要な情報の日常的・継続的な計測による維持管理への活用を実施する。

**(5) その他**

- ①玉名駅南側の市街地及び新玉名駅周辺において、3Dモデルを構築し、浸水想定最大規模下の浸水シミュレーション
- ②令和3年度は玉名市上小田地区におけるデマンドタクシーへのAI技術の導入を実施。今後エリアを拡大させる。
- ③3D都市モデルを活用した避難シミュレーションVR(PC)アプリ事業。
- ④3D都市モデルを活用した災害リスクの可視化事業。

**○部局名・担当者・連絡先(電話及びメール)**

部局名	担当者	連絡先(電話)	連絡先(メール)
建設部都市整備課	安田信洋	0968-75-1122	<a href="mailto:no-yasuda@city.tamana.lg.jp">no-yasuda@city.tamana.lg.jp</a>